

第6回 石木ダムに係る有識者の意見を聞く場(川棚町長) 議事録

日時:令和8年9月25日(金)15時25分~15時55分

開会

○進行 県事務局

それでは、定刻より5分ほど早い進行にはなりますが、皆さんお揃いですので始めさせていただきます。ただ今から「第6回 石木ダムに係る有識者の意見を聞く場」を始めさせていただきます。

本日のご発言内容につきましては、後日議事録全文をホームページに掲載させていただく予定としております。

それでは、以後の進行につきましては、知事にお願いいたします。

開会挨拶、進行方法説明

○進行 平田知事

それでは、まずもって、このたびの川棚町長選挙におきましてご再選されまして誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

そして、今日はお忙しい中お時間をいただきまして、本当にありがとうございます。

この「石木ダムに係る有識者の意見を聞く場」でありますけれども、これまで学識者の皆様をはじめ、川棚町議会議員の皆様、木場地区にお住まいの皆様、県議会議員の皆様など、多様なお立場の方々から幅広くご意見をお伺いしてまいりました。

また、ダム建設に伴いまして用地をご提供いただきました石木ダム地域住民の会の皆様や、佐世保市議会の皆様からは、「意見を聞く場」の開催に代えて、要望書をご提出いただいているところです。

これまで、それぞれのお立場から、石木ダム事業に対する様々なご意見やご提言を頂戴してまいりましたけれども、見解を異にする事項も見受けられましたことから、今後、それらの論点について整理を進めてまいりたいと考えているところです。

本日は、町政を担われる町長のお立場から、石木ダム事業に対するお考え、そして、今後の地域づくりに関するご意見、ご見解などを率直にお聞かせいただければと思います。

なお、これまでの「意見を聞く場」と同様、私自身の考えや所感を申し述べることは差し控えさせていただきますと存じます。恐れ入りますが、その点をご容赦をいただきますようお願いいたします。本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、早速ですが、町長からご意見をお聞かせいただければと思いますので、町長、よろしくお願いいたします。

川棚町長からご意見

●波戸勇則 川棚町長

川棚町長の波戸でございます。本日は、平田知事をはじめ、県職員の皆様方には大変お忙しい中に来庁いただきまして、まことにありがとうございます。また、石木ダム建設事業につきましては、日ごろからご尽力いただいておりますこと、誠にありがとうございます。

本日の有識者の意見を聞く場にあたりまして、起業地の町長として意見を申し述べさせていただきます。この後は着座にて説明をさせていただきます。

まず初めに、今年夏の少雨の影響によりまして、川棚川の流水量が減少したことと、猛暑が続いたことで、水道の原水を取水している山道堰付近でプランクトンが増殖し、水道水に臭気と着色が発生しました。

水の安全性に問題はありませんでしたが、やはり町民の皆さまからは、臭いがし、着色した水道水を飲用することを不安視する多くの声をいただいたところでございます。

プランクトンの増殖は、川棚川の流水量が極端に減少したことが要因であり、ダムの役割のひとつ

である流量調節による流水の正常な機能の維持が重要であると認識したところでございます。

それでは、お手元にお渡ししている資料2ページをご覧ください。

昭和23年9月の豪雨の状況でございます。なにぶん、当時の資料でございますので、見えづらいとは思いますが、ご了承くださいたいと思います。

次に3ページは、昭和31年8月の豪雨の状況でございます。

はい。1ページ飛びまして5ページは、昭和37年7月の豪雨の状況でございます。

6ページにつきましては、昭和42年7月豪雨の状況でございます。

7ページにつきましては、昭和47年6月豪雨の状況でございます。

1ページ飛びまして、9ページは、昭和53年6月の豪雨の状況でございます。

次に、11ページから18ページにかけまして、平成2年7月の豪雨の状況でございます。

このように川棚川が氾濫し、本町では多くの尊い命が奪われ、家屋や田畑等が大きな被害を受けてまいりました。

町民の安全・安心を確保することは、行政の責務でありますので、川棚川の抜本的な治水対策を建設省や河川管理者である長崎県へ陳情しましたところ、石木ダム建設による治水対策が計画されたところでございます。

幸いにいたしまして、平成2年豪雨以降、川棚川は氾濫しておりませんが、昨今の地球温暖化等による豪雨災害が増加している中、大雨関連の気象警報が出される度に、また川棚川が氾濫するのではないかと危惧をしているところでございます。

一方、今年も7月から現在まで、平均に比べ降水量が少ない状況が続いておりますが、昭和53年6月までの干ばつ、平成6年渇水など利水の観点からも、改めてダムの重要性を認識しているところでございます。

利水・治水対策として進められている石木ダム建設事業は、計画通り令和14年度に完成されるようお願いいたします。

これまで本町におきまして、石木ダム起業地としての歴史がございます。資料の22ページから掲載しております。

昭和49年11月に石木ダム建設推進の説明会が川原公民館で開催されましたものの、地元の住民の皆さんの理解が得られず、地元3部落の総代が町長の仲介で知事へ反対の陳情。町議会に石木ダム建設反対陳情が行われるなど、多くの方が反対されてこられました。

昭和50年には、106戸が加盟する石木ダム建設絶対反対同盟の結成を受け、事業の推進がさらに難航していきました。

この状況に当時の竹村町長は、町政を混乱に陥れることのないように、十分配慮しながら円満に解決を図るとの覚悟で奔走される中、昭和51年1月に川棚川総合開発補助事業全体計画が認可されました。

先ほどの8ページにございましたが、昭和53年6月、11年ぶりに干ばつに見舞われました。

給水制限を実施しようとした初日に集中豪雨により洪水が発生し、大きな被害を受けることとなりました。

その年8月に川棚町議会水総合対策特別委員会が「水資源確保と治水対策としてのダム建設の必要性を認めることに本委員会は決定した」との調査結果が報告され、起立多数で承認をされました。

翌月に執行された川棚町長選挙に再選された竹村町長も生活用水・産業用水の確保、住民の生命を水害から守るため、ダムの建設は必要と施政方針で発言され、町としての石木ダム事業を受け入れ、これまで事業推進に協力しているところでございます。

資料30ページをご覧ください。

事業が膠着状態で進展がない昭和54年6月24日、当時の久保知事が、川原公民館を訪問され、百人を超える関係者へ事業の協力依頼と地元振興策、補償方針を提示されました。

その後も、地域の皆さんに対し、石木ダム事業への協力をお願いされたことで、地権者、水源地域の住民の皆様は、知事の言葉を信じ、佐世保市民、川棚町民のことを想い、永年住み慣れた先祖伝来の地を、これまでに8割の方が離れられておられます。

今月13日にダム建設予定地から移転された石木ダム地域住民の会の皆さんと懇談をさせていただきました。会員の皆さんからは、「自分たちは県から石木ダム事業への協力依頼を受け入れて移転したが、今に至ってもその約束は守られていない。」「親たちは石木ダム完成を見ないまま亡くなったが、自分たちは完成を見られるよう早くダムを完成させてほしい。」「なぜ、自分たちはダム事業に協力したのに、苦勞を強いられているのか。」などの意見をいただいたところでございます。

苦渋の決断をされ、移転された皆さんをはじめ多くの町民がダム完成を望まれておられます。

平田知事におかれましては、停滞しているこの石木ダム事業にケジメをつけていただけるものと強く期待しているところでございます。

また、水源地域住民の理解なくして事業の進展はありません。

水源地域である石木、川原、岩屋、木場地区の地域振興は重要でございます。水源地域整備計画やこれまで県から提案された事業の着実な実施をお願いいたします。

特にダム上流部にあたる木場地区の地域振興は欠かせません。

現在、木場地区住民の皆さん、石木ダム建設事務所、佐世保市、本町の職員が定期的に集まって木場地区地域振興策検討委員会を開催し、地域振興策の検討が行われています。

私も毎年参加しており、地元の皆さんは熱心に振興策について検討をされています。その熱意にどうぞお答えいただきたいと思えます。

振興策を成功させるためには、久保知事から提案された県道嬉野川棚線の全線開通が不可欠であります。

この道路は、嬉野市から川棚町を經由し、佐世保市を結ぶことができ、県北地域の活性化にも寄与するものと期待をしております。全線開通まで長期間かかると思いますので、早急な着工をお願いいたします。

平田知事。久保知事、高田知事が地元にお願ひされた、そして約束された内容を今一度ご確認いただきますようお願いいたします。

しかしながら、川原地区にお住まいの13世帯の皆さんは、未だに石木ダム事業に対して反対をされておられます。

私といたしましても、事業を推進させるため、町長就任後、ダム事業へ協力をお願いしてまいりました。

今月11日に13世帯の皆様の元を訪問し、5世帯の方と面会をいたしましたが、「ダムはいらない」などのご意見があり、なかなか解決の糸口を見いだせない状況でございます。

8月30日の意見を聞く場において、反対されている住民の方から発言がありましたように、13世帯の皆様も意見を聞く場への参加を希望されておられます。半世紀ほど前の話になりますが、長崎空港建設交渉が難航する中、当時の久保知事は反対する箕島の島民の元を何度も訪問され、最後にお酒を酌み交わされたことがきっかけで雰囲気が変わったという話を聞いております。

平田知事におかれましても、今回の意見を聞く場が13世帯の皆様と膝を突き合わせて話をする契機となることを願っているところでございます。

日時: 令和8年9月25日(金) 15時25分～15時55分

結びになりますが、石木ダム事業推進にあたっては、過去の悲劇を繰り返すことがないよう、行政代執行ではなく、13世帯の皆様との話し合いによる早期解決を是非お願いし、私の意見とさせていただきます。

○進行 平田知事

ありがとうございました。それでは、私の方からいくつかご質問させていただければというふうに思います。

これまでの度重なる水害についての資料もお示しをしながら、ご説明いただきましたけれども、川棚の皆さんの、川棚川への治水・安全対策への思いというのは改めて聞くまでもないかもしれませんが、かなり町民の皆さん、全体的に強い思いを持っておられるということによろしいでしょうか。

●波戸勇則 川棚町長

はい、そうですね。私自身も川棚町に住んでおりまして、大雨が降るたびに不安になることが多くあります。

平田知事がご存じのように大村湾に面しておりまして、大村湾の満潮、干潮とその違いで、大きな違いが出る場合がございます。いずれも干潮で助かったなということが事例がございましたので、やはり、満潮干潮でのその差がないように、治水対策の方は県の方でお願いしたいと思っているところでございます。

○進行 平田知事

一方で、これまでの水害も度重なったものですが、川棚川の改修自体は可能な箇所から堤防の整備を始め、既に進めてきているところでもありますけれども、これまでの川棚川の河川整備についての評価といいますか、その辺のところはいかがでしょうか。

●波戸勇則 川棚町長

これまで県の方で山道橋下流域の方の河道の改修等をしていただいたところでございます。

本当にそこは感謝しているところでございます。

これにつきましては、県の説明によりますと、今回の改修によりますと、約30年に1度の大雨には対応できるということでお墨付きをいただいているところでございます。(後の町長囲み取材の冒頭で「約60年に1度の大雨に対応できる」との訂正あり)

しかしながら、県の方におかれましては、100年に1度の洪水に対応できるということで、石木ダムと今回の河川の改修を併せて、100年に1度の大雨には対応できる川になるということでお聞きしておりますので、やはり、昨今の大雨の状況を見ますと、100年に1度の洪水に対応する計画をそのまま進めていただきたいと思っているところでございます。

○進行 平田知事

先ほど、町長からのお話の冒頭に、今年の水の臭いと着色の話について申し上げましたが、実際に川棚に住んでおられて、「川棚川の流水の正常な機能」というのがなかなか維持されにくいような、今年の夏に関しては、まさに、臭いと色ということで、正常な機能の必要性を感じられたということだと思っておりますけれども、やっぱり、川棚川の流水の正常な機能が維持されにくい状況にあるというご認識でしょうか。

●波戸勇則 川棚町長

維持されにくい状況とは認識しておりませんが、今回ご存じのように、雨が降らない状況が長く続いておりまして、今年の夏も例年に変わりなく、高温が続いた状況でございます。

それと、ちょうどこの夏場というのが、田んぼの水が一番要る時期でございますので、まず、そういう農業者の方が農業用水として利用される。しかしながら、雨が降っていないので川棚川の山道堰のところで水が流れずに溜まってしまって、高温の中で藻が繁茂してしまったということで、まず最初に連絡いただいたのが、町民の方から水道水から臭いがするというお話をしていただきまして、早急に対応はさせていただいたんですけども、なにぶん、その後も雨が降っておりませんで、今回、お盆前後から、かなり水道課の方では苦勞をしたようでございました。

現在におきましては、途中雨が降りましたので、何とか臭気と色の方は解消したところでございます。

○進行 平田知事

ありがとうございます。これまでの事業の経緯についてもお話をいただきまして、まず、県のこの石木ダムの事業に対する取組の状況、本当に長い経緯だと思いますけども、ずっと、町の立場でご覧になっておられるということで、どのように評価しておられますでしょうか、どう評価といいますか、どのように見ておられるでしょうか。

●波戸川棚町長

私は、直接石木ダムのそういう県との対応を重ねてきたのが、町議会議員に当選した時の平成23年からになります。

当時、初当選の折に、石木ダム対策特別委員会の方に私も副委員長として入りましたので、それ以来、県とのいろんな交渉の場、過去のそういう歴史といいたほうがいいでしょうか、交渉されたことなどを聞かせていただいたところでございます。

やはり、県と地元の地権者との意見の食い違いが多少あるのかなということは感じております。

なにぶん、言うこともちょっとおこがましいですけども、県の説明不足が多少あったのかなと感じております。

私が町長に就任してからも、事後報告というのが何度かありました。まずは、そういうことがないように地元の地権者への説明、そして、また、町への説明もその当時はいただけたら良かったなと思っているところはあります。

○平田知事

ありがとうございます。あと川原地区で今13世帯の皆様、反対をしておられるわけですけども、そうした川原地区の皆さんとの対話といいますか、向き合い方といいますか、そうしたところで今後どうあるべきだとお考えでしょうか。

●波戸川棚町長

県の立場で。やはりですね、やはり、13世帯の方と県との話がほとんどできていない状況だと認識をしておりますので、まずは平田知事ご自身で13世帯の方に、話合いの申込といいたほうがいいでしょうか、話合いの場を持っていただきたいと思っているところでございます。

○平田知事

今後、県として13世帯、あるいは、川原地区との話をしていくにあたって、何かこうポイントになるようなこととかはありますか。

まず、今のお話ですとしっかり話し合いの場を持ってということだとは思いますが。

●波戸川棚町長

ポイントといいたいですか、私も何度か足を運んだことがあるんですけども、やはり、私が推進の立場であるということで、なかなかその先の話ができない状況であります。

やはり、平田知事が行かれるときには何といいますか、住民の、本当の気持ちを引き出すような形で話し合いの場ができたかなと思っているところです。

○平田知事

ありがとうございます。あと、これは、利水も兼ねた利水のための事業でもあるわけですけども、佐世保市の、県の対応について先ほどお話ありましたけれども、佐世保市のこの川棚の現地の方々への対応の仕方とかについて、何かコメントはございますか。

●波戸川棚町長

佐世保市が川棚町に何といいますか、そういう佐世保に対しての意見はあまり聞いたことはないです。ただ、今回の、少雨によりまして、佐世保市が山道堰から取水できない、ということは聞いておりますけれども、やはりそういう状況になりますと、川棚町の方も若干厳しい状況になってきますので。佐世保市に対してのそういう町民の反応というのは、あまり聞いたことはないです。

○平田知事

あと今回、この夏以降の少雨で県北地域全体的に渇水の状況を呈しているわけですけども、この夏の川棚における渇水の状況、あるいは、川棚でこういった渇水の状況のときの水源、川棚の方の水源というのは、どのように対応されておられるんでしょうか。

川棚川への依存度、あるいは、他に地下水などがあるのか、ないのかといったことも含めて。

●波戸川棚町長

本町におきましては、現在、川棚川の水源としての依存度は、依存の程度ですけども、令和7年度につきましては、川棚川から22.7%。石木川から25.5%、浄水場の中にあります浅井戸から51.1%。深井戸から0.7%取水をしております。

○平田知事

約半分が河川水で、半分が地下水ということですね。

●波戸川棚町長

はい。そうですね、そうなります。

○平田知事

第6回 石木ダムに係る有識者の意見を聞く場(川棚町長) 議事録

日時: 令和8年9月25日(金) 15時25分～15時55分

あと、地域振興策の中で、嬉野川棚線の整備といったことがございました。

その他に、地域振興策などで必要と思われるようなことはございますでしょうか。

●波戸川棚町長

まず、石木ダムに影響を受けております木場、石木、川原、岩屋地区の振興が重要であると考えておりますので、前知事になりますけれども、川原地区を除いた地域の地域振興策の要望というのを出させていただいております。

その後になりますけれども、木場地区の方ではさらに、それを練った振興策を考えていらっしゃいますので、その旨は、ダム事務所を通して、知事の方には伝わっているものと理解しているところでございます。

○平田知事

はい。わかりました。ありがとうございます。それでは、私もお伺いをしようと思ったことは、今申し上げましたので、今お尋ねしたこと以外に何か特段のことがございましたら。

なければ、予定した時間に、開始が早かったのではほぼ予定した時間の通りですので、このあたりでとは思いますが。

●波戸川棚町長

特に申し上げたいことは、やはり、地域住民の方のお気持ちを汲み取っていただきたい。

推進されている方、反対されている方もいらっしゃいますけれども、まずは、川棚町が要望しております地域振興策を中心として、13世帯の方々の理解を得られるように、知事にはご尽力をいただきたいと思っていますところでございます。

○平田知事

ありがとうございます。それでは、今日の意見を聞く場については終了とさせていただければと存じます。

今日、様々なご意見を伺いましたので、貴重なご意見を踏まえて論点整理をして、今後の河川整備計画の変更の必要性、あるいは、治水事業のあり方等について検討を進めさせていただきたいと思います。本日は誠にありがとうございました。

閉会

○進行 事務局

以上をもちまして、本日の「意見を聞く場」を終了いたします。